（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 平山　遼

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

私は、このプログラムを通して多くの大切なことを学ぶことが出来ました。英語で会話をするという、非日常の生活は、私にとって簡単なことではありませんでしたが、とても有意義に過ごすことが出来ました。日本での生活では外国人と話す機会が無く、日本人に囲まれて生活しているため、外国の方と話す機会を得られたことは私にとって、とても大きな経験となりました。

日本の文化と他の文化との違いについて、授業や一緒に過ごす時間に話をすることで、他の国の文化や考え方をある程度知ることができました。異なる文化や考え方はとても興味深く、多くの刺激を彼らと話している時に感じました。彼らと話をしているとき、英語がコミュニケーションツールであることに気づかされました。日本にいる間では、英語は資格を取るためやtestで点数を取るために勉強をしていたために、本来の姿が会話のツールであることを忘れていました。また、会話を通して異なる文化を知ることは、お互いを理解するために重要であることを知りました。生まれた国により異なる宗教を持ち、異なる指導方針の基に教育を受け、異なる人生を過ごしてきた私たちが、お互いのことを知るために文化を学ぶことは非常に大切なことだと私は思いました。グローバルな視点を理解することは簡単なことではないと私は思いますが、文化を知ることは世界のことを知り海外での生活や外国人を知るうえで重要な点になるのではないかと思いました。普段の暮らし方は考え方や感情に大きな影響を与えていると私は考えていて、彼らは日本人と比較して異なる視点と感情を持っていると思いました。異なる考え方を持つ人とのコミュニケーションは、私を成長させるための多くのことを教えてくれました。コミュニケーションをとることは、すべての人々にとって重要なスキルだと私は思っています。特に、グローバルに働きたい場合、英語は必要不可欠なツールであり、英語を話せるということは自分の世界を広げることに繋がると思います。また、語学学校と理工学プログラムで西オーストラリア大学の講師、学生とコミュニケーションをとり、感じたことは正しい文法を知らなくても、言いたいことは伝えることができるということです。大事なことは挑戦することであり、間違いをしないように努力することではありませんでした。会話をしていくことで様々なことを学びながら私の至らない点が無数に浮かび上がってきました。私の視点は一方向に固まってしまうことが多く、柔軟に対処することが苦手であったため、テーマについて意見を交換する中で複数の考え方が重要であることを学ぶことができました。会話を通して、自分の見方を変えることができました。日本にいる間は、新しい出会いは少なく、いつも決まったメンバーで会話を行い、新しい考え方や性格を知る機会がないために、この海外研修は私にたくさんの良い機会を与えてくれました。グローバルに活躍するためには、グローバルな視点や能力を磨くことが重要であり、私はこれらは会話を通して取得していくことが出来るのではないだろうかと思いました。その結果、世界にはさまざまな文化や視点を持っている人がたくさんいることがわかりました。この経験を通して得た文化の違いや考え方を自分の知識として身に付けることで、自分自身をより成長させることが出来たと感じています。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

地域のグローバル化や活性化に寄与するためには、英語のスキルを磨く必要があります。私のスキルではまだ貢献するための力が不足しているため、今後も英語の勉強に力を入れていこうと考えています。鹿児島県は特に大都市でもなく、海外との関わりが大きいわけではないと思います。地域のグローバル化や活性化に貢献するために大きなことはまだ出来ないですが、交換留学生の案内など力になれることはあるのではないかと考えています。例えば研修中、鹿児島市と姉妹都市であるパース市にプログラムを開講してもらい、通常は入ることができない建設中の美術館について見学、説明をしてもらいました。美術館のプロジェクトは地域の活性化も考えられたもので、こうした理念を多くの人々に伝える活動は重要だと思いました。グローバル化や地域の活性化への手助けは、一つ一つは小さいものかもしれませんが、少しずつでも出来ていければ、それが大きなことに繋がると考えています。今は、できることを考え、小さな行動をしていく事が地域のグローバル化や活性化に繋がると考えていますので、この経験を無駄にせずに生かすことを考えながら日々過ごしていこうと考えています。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 佐藤　舜

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

様々な国の人と話すことで，人それぞれに独自の文化や味覚があり，自分のあたりまえは小さいものだったと思いました．そんないろいろな人たちと話すことにより唯一の共通点は英語ということに気づかされました．今までは英語を勉強する教科の一つとしてとらえていましたが，言語という認識になりました．100言うことはできないし，言ったことが100伝わるわけではない状況でいかに伝えるかということ，伝えることの重要性を学びました．できる限り伝える方法の一つに簡単な例を引き合いに出したり，ジェスチャーを用いたりして伝えました．また，関係を深めていく中で人それぞれの言い方や発音があることに気づき、そういった識別もできるようになりました．食事も海外で過ごすうえで重要だと思いました．食事は各家庭によって違っていて私の家ではファストフードが主だったため，野菜がほとんどなかったので皮膚に赤い斑点がたくさんできて広がっていくという病気になりました．幸い痛くもかゆくもなく特に影響はなかったですが，普段と違う食事というのはかなりストレスになるんだなと思いました．そこでこういうものが食べたいという主張ができればよかったのですが，失礼になる，作ってくれなくなるといった不安があったため自分で買ってきたり，量を調節したりして10週間を過ごしました．

普段の生活では、バスやごみ収集車のシステムなどが違っていました．バスは前から乗って降りるときは前と後ろどちらからも降りることができたり，電車は基本的にカードを使って乗車し，駅の出入り口でカードにチャージされたお金が減っていくというシステムでした．これは鹿児島でいうRapicaにあたるものでしたがパースでは電車とバスと船に使えました．Rapicaは使えるところが限られていることに不便を感じていたので統一することによりキャッシュレス化がすすみ，混雑が減らせるのではないかと思いました．ごみ収集はロボットアームを使って前日の夜のうちに道路の近くにボックスを置いておけば中身だけ回収され，運転手一人だけで行えるので人件費と手間が省けていいなと思いました。一方で，場所の広さがあってのシステムなのかなとも思いました．また，分別がしっかりなされていたのでそうした視点は取り入れるべきだと思いました．

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

まずは，今後のこのプロジェクトへの参加を周囲に勧めていきたいと考えています．海外に旅行目的ではなく生活してみたい，行ってみたいと興味を持っている人がいれば，不安に思うこと，準備しておくといいものなど教えたいと考えています．そして，英語に対する考え方をグローバルにしていけたら，活性化にもつながっていくのではないかと思います．また，自分自身でも海外にもう一度行ってみようと考えています．次に，自分が海外研修中に心がけた外国人に対する積極的なコミュニケーションを広めていくことで社会に貢献していきたいです．日本人は英語に対して抵抗があり，冷たく接することが多いと思います．この動きを広めることで一人一人が英語を意識すると思います．今回我々が参加したプログラムの一つである建設途中の博物館の外国人向けツアーなどを地域の科学館の案内や歴史館で行うことができればよりグローバル化，そして地域活性化につながっていくと思います．

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：理工学研究科　1年

氏 名：安長　瑠人

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕　＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

10週間という短い期間の中で私にとって一番良かった点は、英語の壁が低くなったことです。私は英語自体は嫌いではなかったのですが、昔から英語の授業やテストなどの成績が悪く苦手なイメージがありました。研修の間、生活をするうえで英語を使わなければならない環境に身を置くことで、そのような意識を変えさせたのではないかと感じております。語学学校での授業も全て英語で説明され、ホストファミリーとの時間も英語でコミュニケーションをとらなくてはいけないため、日本ではできないアウトプットをする時間が多く取ることができました。英語を学ぶのではなく、使うという考え方が身についたので、以前よりも英語でコミュニケーションしたいという気持ちが上がり、英語の壁が下がったように感じます。

次に海外の友達についてです。語学学校では、英語を母国語として話さない人々が集まっているので気楽に英語を使える環境でした。私は周りの友達と仲良くなるために、よくご飯を一緒に食べに行きました。食についてなど、共通の話題があると英語の理解がスムーズになることが分かりました。また、多くの友達が日本食について興味を持っており、日本の文化を英語で伝える能力が必要であると思いました。町を歩くと、いたるところに寿司やラーメンなど日本食を提供しているお店が多く集まり、日本食の人気の高さが伺えました。また、多くの移民が生活するオーストラリアでは、各国の本格的なレストランが集まり、オーストラリアの豊かな食文化を支えていると感じました。そのような環境なので、多国籍な友達と自国の食文化を紹介するいい機会があったと感じています。

最後に、日本とオーストラリアのワークスタイルの違いについてです。オーストラリアではカフェ文化が発達していて、多くのお店が並びメニューも豊富です。一方、お店の営業時間は日本に比べ短く、たいていのお店は16時には閉まってしまいます。日本では、夜まで営業するのが一般的で、顧客側からすると便利である一方、働き手としては十分な休みの時間を確保できていない現状があります。日本では当たり前のコンビニエンスストアの24時間営業といったものは、オーストラリアには全くありません。さらにオーストラリアのスーパーマーケットでは、日曜日はたいてい営業していません。しかし、そのような環境に対し不便に感じることはあまりなかったように思います。海外研修に参加したことにより、働く環境について視野が広がったと感じます。日本と海外のワークスタイルの違いを比較し、良い点は取り入れるようにしたいです。また今後、海外で働く機会があれば積極的に参加したいと思えるようになりました。

〔研修後の抱負〕　＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

今までは海外の人とコミュニケーションを取りたくても、どのように取ればいいのかわからなかったので、今後はもっと楽にコミュニケーションをとることができるのではないかと思いました。一方、日本のローカルな地域において、すべての人が英語でコミュニケーションをとることは不可能でしょう。やはり英語の壁というハードルを少しでも低くしなければなりません。地域のグローバル化や活性化に寄与することは、私一人で解決できる内容ではないと思うので、私のような英語が苦手だった学生が、海外の人々とコミュニケーションをとることができれば、英語のハードルが高くないと思える人々の数が増えると思いました。具体的な取り組みは、学内の留学生と一緒に活動できれば良いと感じます。交流のテーマには、西オーストラリア大学でしていたように、学生が専門的に学んでいることを、わかりやすく人に説明するような活動ができれば、自分の強みも生かしながら地域の人々と海外の人々をつなげるような役割ができるのではないかと考えます。今後も英語力を磨いていこうと思います。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 牧　百合恵

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

私にとって今回のGOES研修が初めての海外経験でした。この研修を通じて、異なる文化背景や考え方をもつ人との関わりを持つことができたことは、自分自身の価値観や視野を見直し、広げる良い機会となりました。

特に、様々な人と話をする中で自分自身の意見を明確にし、相手に伝えることの大切さを痛感しました。これは今までの自分にはまだまだ不足していたものでした。日本では、時に控えめであることが美徳とされる文化背景もあり、自分が考えている以上に意見を発信できていないことに気づきました。ディスカッションの課題についても、これまでは人に与えられていたばかりでしたが、自分で発見しなければならないと考えています。それからは研修を通じて「伝える」ということを意識して習慣付けるようになりました。「伝える」ことを意識していると、自分の語学力を気にせずにコミュニケーションをとるようになりました。この結果、私を含め日本人が苦手意識を持ちがちなスピーキングへのハードルを下げることにも繋がりました。私はこれまで、1日30分程度のオンライン英会話のレッスンを受けてスピーキングの能力の向上に取り組んできていましたが、やはり実際に英語圏に足を運ぶことで言語特有のニュアンスの違いであったり、その地域特有の表現を知ることができました。なにより、話す機会が格段に増えることで考えるより先に言葉を自然に発するという、言語をコミュニケーションのツールとして使う上で大切な感覚を感じることができました。

現地の人々と2ヵ月半過ごしたことで、彼らが国内だけでなく海外の社会問題や政治により関心を持っていることに気づきました。これは、オーストラリアのメディアが積極的に世界のニュースを取り上げているためであるように思います。自然とグローバルな視点をもつことができ、物事をより深く考え、議論することができていると感じました。私も国内の出来事だけでなく海外の出来事にも関心を持つと同時に、日本でも世界のニュースがもっと盛んに取り上げられるようになると、グローバルな視点を養うきっかけが日本国内でも増えるように思いました。私は今回の研修を通じて、世界を知ることの大切さを肌で感じることができたので、今後グローバルな視点で物事を捉えることを模索していきたいと考えています。

さらに海外に滞在したことで、より客観的に日本を捉えるようになり、そこで日本の技術力の高さを再認識することができました。特に、オーストラリアでは日本車が多く走っており、初めて見たときは驚くほどでした。国土の広いオーストラリアでは車での移動は日常生活に欠かせないものにも関わらず、自動車産業は海外からの輸入がほとんどだと聞きました。その中で日本車の安全性と信頼性が評価されていることを改めて実感しました。このように、実際に海外に滞在することで、日本を客観的にとらえられる機会を得ることができたと思います。この視点は今後も大切にしていきたいと考えています。

2ヵ月半という短い期間での研修で、修得できた能力は多くはないと思います。しかしながら、グローバルな視点や能力を養うきっかけやモチベーションは大いに得ることができたと強く感じています。また、今後これらの能力を身に付けていくために、語学力向上のための努力はもちろんですが、英字新聞を読んだり、世界的なニュースを取り扱うラジオを聴いたりして、日常的に視野を世界に向けるといった、やるべきことが研修前よりも自分の中で明確になりました。この意識やきっかけが得られたことは、私にとって研修を通しての大きな収穫であったと思っています。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

グローバル化が求められ始めてからしばらく経ちますが、日本はまだまだグローバル化が進んでいると言えない部分も多くあるように思います。そんな中、2020年には東京オリンピックの開催が予定されており、世界各国の人々が日本を訪れる最大の機会が訪れようとしています。鹿児島への外国人観光客も増加傾向にあり、2020年にはさらなる増大が見込まれます。今の私にできる一番の地域貢献は、町案内ボランティアなどに参加し、鹿児島を訪れた外国人観光客に鹿児島の魅力を伝え、楽しんでもらう手助けをすることだと考えています。私は地域貢献活動やパース市役所による活動で、パースの魅力をたくさん感じてきました。鹿児島の魅力が伝わり、外国人観光客のリピーターが増えることはグローバル化への近道だと考えます。また、将来的には技術者の一員として日本の技術を世界に発信できるように、引き続き自身の研究とグローバルな能力の向上に精進したいと思っております。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 久留　翼

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

能力について

最初は簡単な単語さえも聞き取ってもらえず、歯がゆい思いをした。語学学校の先生がしつこく、音節に関する解説を行っていたため、音節は非常に大切なものだと考えた。日本語に影響されて、余分な母音を加えてしまわないように注意しながら発音することで、徐々に通じる英語を身に付けた。また、今まではあまり聞かなかった洋楽を積極的に聞くことで、英語独特の音の脱落やつながり、リズムなどを学んだ。これらの練習は、自分の発音だけでなく、リスニング力の向上にも役に立っていたと考える。

また、隙間時間にyoutubeをみて、音を意識しながら知識を深めた。こうして学んだ知識をホストファミリーや同居している他国からの留学生に聞いてもらい、間違っていれば訂正してもらいながら、徐々に英語を身に付けた。

視点

様々な英語に寛容になることができたと思う。例えば、日本人はRとLの聞き分けが苦手である。きっと日本以外の国も苦手な音があると思うし、母国語が影響して、少し独特な発音などがあると思う。このように、国ごとに英語は特徴があり、それが原因で、上手く意思疎通がとれないこともあった。しかし、他の言葉に言い換えてもらったり、具体例を示してもらうことで、時間はかかるが意思疎通を取ることができた。

留学に行く前は、洋画の俳優のように流暢な英語が話せないと、あるいは、そのような英語が聞き取れないと英語によるコミュニケーションは取れないと考えていた。しかし、海外で2か月半過ごしたおかげで、その考えは全く間違いであることに気が付いてた。たとえ文法や発音が間違っていたとしても、お互いが、コミュニケーションをとろうと思えば、そうできることを知ることができた。

この経験をもとに、英語が完璧でないからという理由で、英語を話す機会を逃すことはもったいないと考えるようになった。また、国ごとに英語があること、もっといえば、個人ごとに自身の英語があることを理解し、どんな英語にも寛容に、聴く努力に努めるべきだと考えた。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

地域貢献活動では、「地球環境に対する取り組み方」の違いに焦点を当てた。例えば、オーストラリアでは水が貴重であるため、水の使い方に対して非常にシビアであった。一方、日本ではそのように感じたことはない。また、ごみの分別に関しては、日本の方がシビアである。このように、同じ「環境問題の取り組み方」であっても、何に注力するかは国の文化や背景により異なる。しかし、こうした詳細は、実際に住んでいる人としか情報交換できない。そこで、身の回りの物事に興味を持ち、それについて留学生と意見交換することを積極的に行おうと考えた。この意見交換は英語の上達に役立つ。また、自身の知らない取り組みを学べた時、それを自分の街に活用できないか考えることで、地域のグローバル化及び活性化に寄与できると思う。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：理工学研究科　1年

氏 名：平田　大空

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

私は今回の海外研修が人生で初めて国外に出る機会でした。学部時代にも海外留学に行こうと何度も試みましたが、金銭面を理由に断念してきました。そしてオリエンテーションの時にGOESのプログラムを知り参加を希望することにしました。私はGOESに参加するにあたって一つ自分の中で意識することを決めていました。それは”多くの時間を外国人と過ごす”ことです。海外留学に行く人はみんな考えることだと思います。しかし、実際に海外に行ってみると、それはとても難しいことだと実感しました。なぜなら日本語の通じない国で自分の言いたいことをうまく言えず、過ごすというのはとても勇気がいることだからです。しかし10週間という短い期間で最大限英語力を向上させるために、私は可能な限り過ごすように努めました。初めのうちは単語の羅列とジェスチャーでなんとか意図を伝えるだけしか出来ませんでした。しかしこれがとても重要なことだと後に気づきました。英語を学びに来ている人は私たちと同じように第二言語として勉強しに来ています。彼らの英語を聞くと、明らかに間違った文法だと気づくことが多々ありました。しかし、文章全体の意味は伝わります。日本人は中学校、高校の教育課程でしっかりとした文法を学び、100%正しい英語をしゃべろうとする傾向があります。頭の中で文章を作って話す英語を、私は本当のスピーキングスキルとは思いません。研修前に私は自然と口から出る英語を身に着けたいと考えていたため、とにかく口に出すことを心掛けました。すると徐々に英語を頭の中で翻訳する時間が短くなり、時々何も考えずに自然と会話ができるようになりました。私は海外の友達と話すうえで、彼らから”ミスをする勇気”を学びました。ミスをすることで頭に記憶が残ります。また、それを友達と互いに指摘しあうことでお互いの英語力を向上させることができます。まさに一石二鳥でとても効率の良い英語の勉強法だと思います。また私がパースに行って他のクラスメートと話すときに驚いたことは、私の英語の発音が通じないことでした。特に″th″で舌を噛む発音と″l″と″r″の違い、″b″と″v″の違い。これらを含む単語が全く通じないことを一週目で体験し、発音の重要性を目の当たりにしました。会話の速度は落ちますが、一音一音意識して発音することで、徐々に通じるようになりました。

ここまでは主に英語力向上について書きましたが、ここからは海外に行ったことで学べたことについて書いていきたいと思います。オーストラリアは世界の中でも特に多文化国家なので、色々な国の人が過ごしています。同じクラスの中でもアジアやヨーロッパ、南米の人がいました。彼らと話をする度にお互いの文化の違いを発見することが出来ました。日本では当たり前だと思っていたことが、海外では通常あり得ないことだと知った時にはとても驚きました。また、文化の違いに私はとても興味を持ちました。例えば道路を渡るときに、日本では自動車学校で歩行者が優先だと教えられています。これは日本の法律、道路交通法で定められているからです。しかし、オーストラリアでは車が優先です。歩行者が渡っていても車が容赦なく突っ込んでくるので十分に気を付けて渡る必要があります。驚く文化だけではありません。たくさんの素晴らしい文化が存在します。日本ではバスに乗るとき降りるときに挨拶をする人は乗客のほんの一握りです。しかし、オーストラリアでは乗客全員が必ず挨拶や、感謝の言葉を述べて乗車や降車を行います。私は初めて見たときとてもびっくりしました。しかしこれは普通のことなのです。私は日本でもこのような文化が広まってくれることを願っています。

冬になると私は就職活動を始めます。海外研修前は私はSEになれたらいいと、ざっくりとしか考えていませんでした。しかし、研修に行って海外の素晴らしい文化を目の当たりにしたことで、人と関われる仕事を目指したいと考えました。また、国内のみならず世界で活躍できる人材になりたいと思います。日本製品や日本の技術をオーストラリアで見かける場面が多々ありました。グローバルな企業でグローバルな社会人になることが今後の目標です。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

今回の研修を生かして、今後私はミートアップ等の外国人交流活動に積極的に参加していきたいと思っています。パースで私も実際にミートアップに参加して、パースの良いところや日本との違いについて語る、とても充実した時間を過ごせました。コロンビア人の友達に聞くと、色々なミートアップが他にも毎週行われていたそうです。しかし、鹿児島ミートアップで検索するとほとんど行われていないのが現状です。なぜ少ないのか詳しい理由は分かりませんが、鹿児島の良さを海外の人に発信出来るような機会があれば是非参加してみたいと思います。また、鹿児島大学には海外からの留学生も多く在籍しているため交流を行いたいと思います。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：理工学研究科　1年

氏 名：脇　海晟

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

今回の研修を通して，日本では得られない経験を得ることが出来ました．英語学校では様々な国籍の生徒が集まり英語を使って英語を勉強します．国ごとに英語の癖が違うので聞き取って貰えないことや，聞き取れないことが多くありましたが，何回も繰り返し話すことでお互いに理解できるようになっていきました．また，外国人のスピーキング能力に驚きました．私たち日本人はどうしても文法を気にしてしまい，なかなか英語で話すことができなかったのですが，他の国の生徒はスラスラと英語で話せていました．最初の頃は間違いを気にせず話そうとしても，頭の中に英語が浮かんで来ないため，スムーズに話すことが難しかったのも，時間が経つにつれて以前よりスムーズに英語が出てくるようになりました．自分が日本で受けた英語教育はほとんどスピーキングがありませんでしたが，パースで受けたスピーキングの授業は新鮮で楽しく，非常に勉強になりました．また，私は現地の英語の授業においてほとんど英和辞典を使いませんでした．英単語の意味が分からなかった時は英英辞典を使いました．英語を英語で理解することによって頭の中で翻訳する手間が減り，英単語が頭の中に入りやすくなったように感じました．英語の基本的な部分は日本語で学んだ方が早いかと思いますが，ある程度英語の基本が出来るようになった後は，英語は英語で学ぶべきだと思うようになりました．

海外の文化を学ぶという面でもとても良い経験になったと思います．ホームステイ先では日本と違う文化の人と生活することになるので，価値観の違いで苦労することや悩むこともありましたが，それを受け入れることで新たな考え方が出来るようになったように思います．オーストラリアの人々は大らかで，しっかりとしないといけない場面とそうでない場面の区別がはっきりとしていると感じました．大雑把なところはあるのですが，時間にはタイトで交通機関においてもほとんど日本と同じように時間通りに来るので困るようなことはありませんでした．日本人は細かすぎるところがあると思うので，静と動の区別が大事だということに気付けました．また，オーストラリアの人に限らず海外の人は自分の意見をはっきりと言います．自分は特に物事をはっきりと言えないタイプなのですが，何も言わないままでいると自分の望んでいない方向に行ってしまうので，言いたいことははっきりと言うように心がけるようになったと思います．

オーストラリアで生活していて思ったのが，テレビ番組が世界のニュースを取り上げているという点です．日本のニュース番組は，ほとんど日本の事柄しか話題にしていないと実感しました．また，オーストラリアにはニュースを風刺のように扱った番組もあり，政治や経済について興味関心が湧きました．自分のホストファミリーは政治や経済，環境問題について毎晩話し合ったりしていて，そのほかのホストファミリーも同じだと聞き，日本の家庭で政治について討論したりすることは無いので驚きました．日本はもう少し自分たちの生活している場所について考えるべきだと思うようになりました．私は日本に住んでいる以前に地球に住んでいるのだから，もっと世界について知らなければならないと思いました．また，日本で生活しているのに日本のことについてすら知らないことを恥ずかしく感じました．今はまだグローバルな視点や能力が身に付いたとは思えませんが，そのような能力が身に付くように頑張ろうと思える研修でした．

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

まずは，自分の住んでいる地域について知ることから始めたいと思います．自分は今まで自分の住んでいる場所について知らな過ぎたので，ちゃんと知ったうえで何をすべきかを考える必要があると思いました．また今はIT社会であり，ITにおいて英語は必須のスキルです．まずは英語を更に勉強し，もっと話せるようになりたいと思います．具体的には英語を話したい人同士で集まって会話するだけでも良いと思っています．パースでは英語を話したい人が集まるイベントというのが活発に行われていました．パースには人がたくさん居たからそういうイベントが活発に行われていたのかと思いますが，人が少なくても英語を話したいという人は一定の割合いると思うので，そういう人たちで集まって会話ができたらと考えています．

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 藤田　紗世

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	サンディエゴ州立大学（アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ　）
研修期間	2019年6月28日　～　2019年9月11日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

私はこの2カ月半の海外研修を通して、“グローバル”という点で自分の過去、現在、そして未来を考えることができました。私は、海外研修に参加する以前からグローバルに活躍するという目標を持っていたため、日本でできる限り英語の勉強に時間をかけていました。過去の自分は、TOEICといった点数でしか測れないテストだけに集中して勉強していました。そのため、研修初期は、speakingや自然なスピードの会話についていくことが難しかったのですが日々過ごしていく中で慣れていきました。ただ、私の問題点として“yes”、”okay”だけで会話を終わらせてしまうことが多々あったことです。最悪なことに聞き取れなかったときにも”yes”と言ってしまうときがありました。聞き返すべきであるのに早く会話を終わらせたいがために言ってしまう。相手に対して本当に申し訳ない気持ちになりました。きっとこれは多くの日本人が感じていることだと思います。私にとって現地の人の会話を聞いていると、話が長いのですが、会話自体を楽しんでいるように感じました。グローバルに活躍するには、一言で話を終わらせてしまうのは失礼にあたると感じました。また、カリフォルニア州で生活することで、日本と似ている部分がある一方で、多民族、多文化を強く感じました。私は学部時代に研修でカリフォルニアを訪れました。その直後に、山火事という大きな災害を受けているニュースを見て、鹿児島で募金活動を行い、復興に向けて手助けしたのを覚えています。日本も自然災害が多く、その点で似ていると思います。今回実際に、山火事後の土地も訪れることができ、世界全体で自然災害に対して助け合っていく必要があるとより感じることができました。カリフォルニアにはアメリカ人だけでなく、留学生やメキシコからの移民も数多くいます。だからこそ、社会が受け入れてくれることが多いのではないかと思います。私は地元のコミュニティーの活動に参加したのですが、そこに来ているアジア人も、私のように一人でサンディエゴに来て、孤独を感じ、このようなグループに所属することで仲間を作っていったのだと思います。だから、私が出会った人たちは、優しい人が多く、すぐに助けてくれました。日本でも同じなのですが，グローバルに活躍していくとなると誰を信じるのか，何の情報を信じるのかというものがより重要になっていくと思います。背景も文化も違う土地では疑うこと、信じることがより難しいと思います。これは言葉の問題ではなく、経験でしか得られないことだと思います。今後も、国内だけでなく、日本以外でも活動を増やしていきたいと思います。
現在、帰国して、日本での英語の勉強を再開しています。10週間で英語能力が向上したとは思えません。逆に、グローバルに活躍するために私の英語力はまだまだ不十分で勉強は続けていこうと思いました。現地でできた多くの友人などもサポートしてくれるため、日本にいても語学力はまだまだ伸ばせると思います．私は1カ月半語学学校で過ごし、残り1カ月科学館でボランティア活動を行いました。そこで教育の違いを身をもって感じました。語学学校にはもちろん世界中から生徒が集まります。日本では席に座って静かに授業を受けることが当たり前なのですが、アラブ系やヨーロッパ系の生徒の授業中の自己主張には驚きました。私たち日本人は基本的に文法中心の英語教育を受けてきました。そのためspeakingの授業になると周りに驚かれるくらい話せなくなるのです。それでも何か発表するたびに先生たちは褒めてくれます。怒られることに怯える日本とは対照的だと思いました。科学館には毎日多くの方が訪れます。毎日、学校には行かないけれど、科学館には来るような子供もいます。日本よりも科学館や図書館といった学校以外での教育の場が発達しているのではないかと思います。
私にはグローバルに活躍するためにはまだまだ足りない部分があると感じました。特に顕著な点は語学と積極性です。語学は数カ月ですぐに向上するわけではありません。日々の努力と継続であることは間違いないと思います。積極性に関して、私は行動の面では積極的だと思っていますが、人とのコミュニケーションとなると消極的になりがちです。自分を言葉で表現することが苦手だと感じています。それでもこの壁を乗り越えなければ社会で活躍していけないと思います。日本語でも日々の会話や発表、ディスカッションなど言葉を要するコミュニケーションの場を大切にしていきたいと思います。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

来年は東京オリンピックが行われ、鹿児島にもかなり多くの海外観光客が訪れると思います。アメリカで助けてくれた人たちのように、日本人として、困っていたら助けていくのはもちろん、現地でしか得られないプラスαの情報まで伝えていきたいと思います。また、2年前に山火事にあったワイナリーは薩摩藩士長澤鼎が開いたものでした。実際に鹿児島大学海外研修基礎コースinカリフォルニアに参加したときに訪れ、その関係性について学びましたが、山火事で全焼してしまいました。このプログラムに参加したメンバーで募金活動を行い、1000ドルを寄付させていただきました。今回の研修では実際にその現場に戻ることができました。現在再建中ですが、鹿児島とカリフォルニアの歴史と、ワイナリーと鹿児島との関係について、鹿児島の人々に広めていけたらと思っています。カリフォルニアとの繋がりを知る人を増やし、繋がりを作ることで、鹿児島地域のグローバル化に貢献したいと思います。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 芥　圭一郎

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

まず最初に特筆すべきことは海外の人は、日本にかなり興味を持っているという点である。それは互いに話すうちに日本が好きで日本語を教えてほしいという人や日本の食べ物について聞かれることが多かったからだ。また日本に来たことがある人も多かった。このことと海外、特にアジアからの旅行者が増えている現状とを併せ考えると、今以上に英語を積極的に広めていくことが必要だと感じた。私は語学学校でタイ人の友達ができたが彼に英語の質問をしているときに、なぜそれが分からないのかと逆に問われ、日本人だから仕方ないという言葉を飲み込んだ覚えがある。そこで私は日本人が圧倒的に英語ができないことと、他国の英語習得率の高さに気づくことができ、あちらでの勉強のモチベーションとなった。それはともかく、これらのことから日本の問題と、逆に英語の能力を伸ばすことで今後他人と差をつけられるとも感じている。次に日本人以外との英語でのコミュニケーションについてだが、私はこれが最も得られた能力だと思う。パースに行った当初は本当に大変だった。というのも質問に対してぱっと英語での返答が出てこない、そもそも言ってることが理解できないことが多かった。しかし話す方は何度も話すうちに上達していったと思う。よく使う言葉はいちいち日本語に変換しなくても出るようになったし、話す前に準備していた言葉も簡単に出るようになった。しかしとっさの時には文法や前置詞をうまく使えていないし、ボキャブラリーもまだまだだと思う。なので日本に戻っても積極的に日本人以外と話す機会を作ろうと思った。リスニングについては、留学前よりは明らかに上達したが、もっと海外にいて練習したいと考えている。なぜなら人によって癖があるし、アメリカ英語とイギリス英語でも発音が違うものがあり、また国によっても違っていたりする。そして日本人以外は比較的そういう違いに惑わされていないと感じた。英語とかかわる時間の差が主な原因だと考える。なのでもっと関わる機会を増やしたいと思った。最後に一番大切だと感じたのは、経験していないのに偏見を持つというのがどれほど意味のないことかということだ。それを考えるに至ったのは、中国人と仲良くなったという経緯がある。私は留学前は中国に関していいイメージは持っていなかった。それには確たる理由があるわけではなく、何となく社会の風潮やニュースなどを見て思っていただけであった。しかし実際私がかかわった彼らは私たち日本人と何も変わらない人間だった。多くの人が日本が好きで話を聞きたがったり、積極的にかかわりを持とうとしてきた。思ったことをはっきりというところは日本人と違うが、それも悪いことではない。仲良くなった経緯も彼らと一緒にバスケットボールをしたことであり、そのあとも何度も一緒に遊ぶことがあった。このことから、実際どうであるかは見てみないと判断できないし、しょうもない偏見で外国人を日本に迎え入れる体制作りに力を入れないことはとてももったいないことであると思った。特に近年多くのアジアの人々が日本へ旅行にきているのは周知の事実だが、そこで利益を出すためには彼らに対するより深い理解が必要だと考える。こうした視点を仕事などで海外とかかわる前に得られたことはとても有意義であると感じた。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

日本に移住したいと思っている人たちの手助けをするボランティア活動などがあればやってみたいと思っている。というのも彼らの役にも立つし私自身の英語力の強化にも役立つからだ。日本に帰ってきてアルバイトで外国人を接客する機会が2度あった。その時感じたのは、留学前より圧倒的に話せるようになったことと、まだまだこの程度では社会に出ては役に立たないという相反する気持ちだ。そこから10週でこれだけ伸びたんだからもっとやれば結果がでるだろうというモチベーションと逆に英語と関わらなければ英語力が落ちていくんだろうという不安を感じた。なのでアルバイトでもボランティア活動でももっと外国人とかかわる機会を増やしてスキルの増進に努め、語学の壁を感じないでいい会話ができるようになることで、リサーチや討論の場で役に立つのではないかと考えている。
また、西オーストラリア大学で行った理工系プログラムでは、大学院生が自主的な活動としてワークショップを開講する形で行われるものもあった。学生が専門外の人に対して研究のことを伝える良い活動だと思い、鹿児島大学や、研究科でもこうした活動ができれば地域の活性化につながるのではないかと思う。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 理工学研究科　1年

氏 名: 相原　知佳

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕 ＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

研修を通じて学んだことの一つ目は、世界には様々な考えを持った人がいるということだ。これは当たり前のことではあるが、今回身をもって体感することができた。同じクラスだった台湾人の友達が言っていた話だが、文化をトピックにしたプレゼンテーションをしたとき、彼女は自分の国の文化として台湾を紹介したそうだ。しかし、質疑応答の際、中国出身のクラスメートが台湾は中国であると主張してきて大変だったという話を聞いた。また、他の台湾人の友達も自己紹介の時に台湾出身であるとは言いにくいと言っていた。個人的には国際問題を語学学習の場に持ち込むべきではないと思ったが、色々な考えを持つ人がいるということが分かった。今まで、ずっと日本で暮らしてきて、国同士の政治問題を間接的にニュースや新聞で見たり聞いたりしたことはあっても、実際に体感したことはなかったので新鮮だった。特に中国と台湾間の政治問題を考えたことも無く、台湾が一つの国なのか中国の一部なのか考えたことがなかった。国同士の問題に対して自分が何かできるわけではないが、そういう問題があるということを知っていることだけでも海外の人とコミュニケーションをとる上で大切になってくるのではないかと思った。国際問題は解決はできなくても、理解しておくことが重要だということを学んだ。

研修を通じて学んだことの二つ目は、常に積極的にポジティブな姿勢を保つということである。今回の語学学校の私のクラスは、チリやコロンビアなど南米出身の生徒がたくさんおり、そのほとんどはオーストラリアで大学院に進学しようと考えているようだった。彼らは授業中、常に発言しグループを率先して引っ張っている印象だった。どんなに文法や発音が間違っていても物おじせず先生と対等にコミュニケーションをとっていた。彼らに話を聞いてみると、母国語であるスペイン語は英語と似た単語が多く、文法も比較的近いそうだ。この英語を話すときの自信は彼らの英語力の高さからくるものかもしれないが、授業に対する積極的な姿勢は見習うべきであると感じた。

〔研修後の抱負〕 ＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

パースと鹿児島を比較すると、国籍の多様性に大きな違いがあると感じた。パースは大学の中だけでなく、街中やバスの中でも様々な国の出身の人がいた。地域の外国人割合を増やすことはすぐには出来ず、直接的には難しいが、今訪れている外国人の手助けをすることで、地域のグローバル活性化に寄与できるのではないかと考えている。例えば鹿児島に留学や仕事で滞在している外国人向けの日本語講座などである。私自身何度か参加させてもらったことがあるが、今後も時間を見つけて参加したいと思っている。

（別紙５－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：人文社会科学研究科・1年

氏 名：宮脇　由羽

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先（大学・国・都市名）	西オーストラリア大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）
研修期間	2019年7月12日　～　2019年9月22日

〔研修を通じて学んだこと〕　＊研修を通じて、グローバルな視点や能力をどのように得ることができたか。

この研修で、私は初めてオーストラリアを訪れました。また、これまで私は何度か海外旅行をしたことはありましたが、長期滞在並びに留学はしたことがなかったため、この研修が初めての留学になりました。鹿児島出身で、今までずっと鹿児島で暮らしてきたため、今回の研修は私にとってとても貴重な経験となりました。この研修を通して、ホームステイ・語学学校・西オーストラリア大学での講義の受講・ワークショップ等さまざまな活動をしました。日本とは全く異なる国で、異なる言語を使い、ホストファミリーと暮らす、そして語学学校に通う毎日はとても刺激的でたくさんの学びがありました。まず、最初に驚いたのは、道路や家、公園や建物が日本よりも大きいことです。オーストラリアの面積の広さを身をもって感じました。何もかもが広々としており、開放的な気分になることができました。外国は、時間にルーズなイメージを持っていましたが、公共交通機関は時間通りで、時にはバスが時間より早く来たりすることもありました。語学学校で英語を学んだり、ホストファミリーや外国の友達と話す中で気づいたことは、英語は直接的な表現であることです。自分が言いたいこと・自分の意見を持っていないと、曖昧な返事になったり、相手が理解しがたい状況が何度かありました。日本ではよく「なんでもいい」「どっちでもいい」などと、自分の意見をしっかり持っていなかったことが日本人以外の人と関わることにより明らかになりました。そこで、意識的に自分の意見や考えをもち、伝えるように行動しました。また、ホストファミリーとたくさんの話をしましたが、特に印象に残っているのは「ここ（パース）が住みやすくて、楽しくて、日本のいいところがわからなくなった」と尋ねた時に、「日本は長い歴史があって、素敵な文化があって、とてもいい国だよ。自分は日本人になりたいよ。」とホストファザーが答えてくれたことです。オーストラリアは約200年ほどしか歴史がなく、元々イギリスの流刑地だったため、日本の歴史などが面白く、素晴らしい歴史なのかなと思いました。日本で暮らし、日本人と関わるだけでは気づかないことにたくさん気づくことができました。オーストラリアの人々はよく「No wories」という言葉を使い、小さいことは気にせず、大らかな性格で明るい人が多いと感じました。その性格はきっとこの土地やライフスタイルが築いたものであると思いましたし、とても良い考え方だと思ったので、自分に少しでも取り入れたいなと思いました。ホストファミリーと暮らしていく生活の中で、オーストラリアはとてもエコな国であると感じました。それは、資源が限られているという理由かもしれませんが、あまりティッシュを使用しなかったり、水やコーヒーをマイボトルで持ち歩いたり、スーパーのレジ袋が有料で日本よりも割高であったり、様々な環境に優しい取り組みが行われていることを感じました。日本に戻ってからも、資源の無駄遣いをしない生活を心がけたいと思いました。留学前の私の英語力は、高校生レベルまたはそれ以下でした。英会話というものもまともにしたことがない私が１０週間、英語圏で暮らしていけるだろうかととても不安でしたが、私の持っている英語の知識・語彙力のレベルでもコミュニケーションを取ることができ、また外国の友達を作ることができました。簡単な英会話は難しい語彙力や読解力などは特に必要ではなく、リスニング力や発音、伝えたいことをいかにわかりやすい表現で伝えるかということだと私は学びました。この留学を通してもっと英語力をつけたいと思いましたし、将来仕事で少しでも英語力を活かせたらいいなと思いました。オーストラリアは多国籍国家なので、様々な国出身の人が暮らしていました。それは日本とはとても異なり、私はとても暮らしやすいなと思いました。それは、私が日本という狭い世界で暮らすことに少し生きづらさを感じていたからかもしれません。日本はとても小さな島国で人口が約１億３千万人、もちろん海外の人もいますが、暮らしている大半が日本人です。総務省の調べによると、2019年7月1日時点で、在留外国人数は約2%だそうです。土地の広さ、生活する人種の違い、人口、様々な要因により、その国が成立していることがわかり、またそこで生活するからこそ形成される性格や人間性、ライフスタイルがあることを知りました。私は、日本でずっと暮らしていましたが、今回オーストラリアのパースに滞在して、他の国のあり方や、日本を客観的に見ることができました。今後、日本で一生生活するか、どこか海外で生活するかはわかりませんが、この研修を通して学んだ多くのことを活用したり、心に留めながら、自分の将来について考え、行動をしていきたいと思いました。

〔研修後の抱負〕　＊今後、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、どのような取り組みをするかについても記載すること。

私は、地域のグローバル化や活性化に寄与するために、身近にいる友達や学生に今回の研修で学んだことやオーストラリアと日本の違い等を伝える取り組みをしたいと思います。現在、私は学生と関わる団体に所属しているため、多くの鹿児島の学生と話をすることができる機会があります。そこで、私の研修中の経験談や感じたこと、英語の重要さ等を伝え、少しでも地域のグローバル化や活性化に繋がって欲しいと思っています。私自身、将来就こうと考えている仕事と英語や海外は特に結びつくものではなかったため、興味はありましたが、実際に海外研修に踏み出すことができずにいました。学部時代にそのような気持ちで4年間過ごしてきたこともあり、大学院に入学し、この研修を見つけた時は、挑戦してみようという気持ちになりました。そして、興味があること・ときめくことに挑戦することはとても楽しいことだと気づくことができましたし、とても貴重な経験をすることができたので、海外研修や留学について少しでも迷っている学生がいたら、少しでも背中を押したり、私の研修中の体験談を聞いて欲しいなと思います。実際に、海外に行ってみなくてはわからないこと・気づかないこともたくさんあると感じたので、このような取り組みをしたいと思いました。大きな地域貢献ということは私には少し難しいですが、私が少しでも影響を与えられる存在になり、私の周りの人たちから少しでも地域のグローバル化や活性化に結びついて欲しいです。